

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0371300203		
法人名	社会福祉法人 共生会		
事業所名	グループホーム アミーチ		
所在地	岩手県二戸市似鳥字上平15-1-2		
自己評価作成日	平成22年5月12日	評価結果市町村受理日	平成22年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371300203&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371300203&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	(財) 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号
訪問調査日	平成22年6月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日々、個々のペースに合わせ、ゆとりのある生活を送れるよう側面から支援させて頂いている。
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「ひとりひとりの、想いを大切に、」の理念を掲げ、利用者の声を聴き、待つことを大切にしている。施設長、職員とも利用者及び家族の側に立った介護を念頭に、取り組みがなされている。利用者さんには長生きをしていただきたいとの思いが、伝わってくる温かいホームである。法人で委員会が作られて(環境整備・防災・行事・倫理・衛生・プライバシー・入浴・排泄・食事・身体拘束廃止)意識の向上に努めている。
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営方針を理念とし、ホーム内の見やすい場所に掲示していたが、その中の一部である「一人一人の想いを大切に」を抜粋し理念とし、日々職員が意識して実践に努めている。	職員達が検討し、簡潔に謳われた理念が、掲示されている。理念にこめた想いを大切に、日々のケアに活かす努力がされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小・中学校からの招待で運動会や学習発表会などに参加し交流会を深めている。又、市の催し物にも積極的に出かけている。	以前から続けられてきた、学校への手作り雑巾の贈呈は現在も行われている。市の郷土芸能大会には、全員で参加をして、楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	冬季に利用者が作成した雑巾を近隣の小・中学校に寄贈している。利用者と一緒に訪問し、生徒に手渡し、涙ぐむ利用者も居る。縫い物は得意な方が多いので雑巾作りは続けていきたい。誰かの為に何かをしたいという気持ちを失わないよう支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには幅広い立場の人で構成されている。ホーム内の行事や評価への取り組み状況を報告し、話し合いの機会を設けて、サービス向上に繋げるよう活かしている。	家族会はないが、運営推進会議の開催には、全家族に案内をして意見等を頂く機会を作っている。スプリングラーの取り付けや、行事参加など委員さんの積極的な働きかけで早期に実現が可能になった例もある。	担当が替わり行政からの参加が少なくなったが、包括支援センターにも参加を呼びかけ、広く意見を聞くことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所での課題について(災害等)、市の関係職員に実績を積極的に伝え、協議し取組んでいる。	市の担当とは連絡を密に取り合い、指導、助言をもらっている。推進会議で結果を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止委員会を設置し、月1回話し合いの機会を設けている。施設内外の研修会に参加している。又、身体拘束は行っていない。	どんな時も拘束はしないことを、職員、家族とも話し合っており、説明をして同意を得ている。拘束排除に向けて、考えるケアに努力が続けられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で倫理委員会を設け、地域の方々に2ヶ月に1回来てもらい、利用者から悩みや苦情などを聞く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての支援に関することを学び、家族からの相談があった際は受け答えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に担当のケアマネージャーより情報を得たり、契約時の説明の際、時間を十分に取説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情処理の担当者を設けている他、玄関に苦情処理箱を設置している。法人の倫理委員(5名)が、2ヶ月に1回、利用者より意見等を聞き、運営に反映している。又、家族との連絡を密にしており、家族の意見を聞き出したり、話しやすい環境作りに努め、意見等あった際はすぐに対応している。	法人の倫理委員に、利用者の意見や要望を聞き取る仕組みがある。家族には担当が月1回、様子や写真を添えて報告、担当の顔が分からない家族には利用者さんと一緒に写真で対応した。スプリンクラー設置は家族の要望で早まった経緯がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの際に管理者も出席し、何でも話しやすい環境である。月1回の運営会議でも意見を聞くようにしている。緊急の場合は、その都度、聞き判断している。	ホームで月1回開催されている運営会議には、施設長も参加をして、職員の意見や相談に理解を示していることが、職員への聞き取りで分かった。個人的な悩みについても、主任が誠意を持って対応しており、信頼関係が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見等をその都度、聞き、出来る限り取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各事業所が持ち回りで研修を行っている。外部の研修には積極的に参加させ、内部研修では講師を務めるなど、研修に参加する機会を多くして意識や知識を高め合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北地区のグループホーム協議会で行っている研修や交流会に参加している。近隣のグループホームにも積極的に見学に行き、交流を図っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーや担当職員が利用者に関わりを多く持ち、相談から利用に至るまで対応している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーや担当職員が情報や入所申し込み時に相談をよく聞き、対応する事を心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を聞きながら対応しているが、他のサービスも受けた上で、グループホームに相談に来ている方が多い。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩として尊敬し、生活のあらゆる場面(炊仕事・洗濯・料理など家事全般)を学び支え合う関係作りに努めている。何を行うにしても利用者さんに聞いてから行うようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は家族が行う事を原則としている為、家族は日常の様子を把握し理解して頂いている。些細な事でも相談・報告している。家族には職員では出来ない支援があると常に伝えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の特養のショートステイやデイサービスを経てきた利用者が殆どで、利用者と職員は顔なじみの関係が出来ている。デイサービス利用の方が面会に来る時も多い。	平日の昼食は特養に出かけており、なじみの方との交流が図られている。こだわりの買い物(服・小物)に行ったり、デイサービスの帰りに(グループホームに)立ち寄る方もあり、本人の想いに添う支援がされている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動やアクティビティなどで利用者同士が声を掛け合っている。孤立しがちな利用者には得意な事を他の利用者で行えるよう支援している。利用者同士のトラブルや人間関係は観察を行い、職員同士が情報を密にして対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所になった利用者には、家族や利用者と会う機会が多い為、声掛けや挨拶を忘れずに行っている。家族さんのほうから声を掛けてくれる時もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人が話したことを書き留めている。又、年に1回、センター方式を実施し、担当職員が時間をかけ、本人の思い等を聞き出している。	ホームの方針で「日課を作らない」で対応しており、その日の天候、体調で臨機応変な対応がとられている。連絡ノートには、利用者さんの話したことや、想いが記入されており、家族との連絡時に活用している。職員の年齢に幅があり対応を可能にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者・担当ケアマネージャーの協力を得て、今までの生活を把握し記録している。又、年に1回、センター方式を実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や職員同士の情報交換で、現在の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族が希望しているケアを組み込み、ケアプランを作成している。又、運営会議の際、全職員の意見を聞き、原則として3ヶ月に1回、見直しを行い、その都度、話し合っている。作成後は家族に説明し了承のサインを貰っている。	ホームに来て介護度が改善された利用者が多い。入居(利用開始)時、物取られ妄想の強かった方が、職員の根気強い対応で4ヶ月で改善の方向に向いたことは、ケアの自信に繋がり、家族の信頼度向上にもなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・夜勤日誌を使用し次の勤務者へ申し送りを行っている。連絡ノートを活用し、グループホーム内での細かい情報を全職員が共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は原則として家族が行う事になっているが、家族の都合がつかない場合等は、ヘルパー対応で行い、送迎は事業所の車で対応している。月に一度、なじみの美容院を利用する方もおり、送迎をし喜ばれている。又、週に2回食材の買物へ出掛けるが、他にも希望があれば、出来る限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小・中学校の運動会や学習発表会に招待され参加している。又、年に2回の法人全体での避難訓練の際、地域の消防団・小中学校PTAの消防クラブ等の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医との関係を切ることなく、継続的に医療が受けられるよう支援している。やむを得ず転院が必要な場合は紹介状を頂くなど、医療がスムーズに行えるよう支援している。	大半の方が、入居(利用)前からのかかりつけ医を継続している。通院は家族が行うが、ホームで対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師に、利用者の情報提供表と内服薬内容・かかりつけ医を報告し、利用者に変があった場合は、すぐに連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の県立二戸病院と締結し、担当医と相談や情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族にはアンケート調査等で意向を確認しながら、併設の特養との連携で支援している。	状態の低下があるときは、法人の特養に移動することを説明して家族の了解を得ている。又、家族にはターミナル時、利用者の傍にいてあげるようお願いをしている。	ホーム全体で統一した意識を持つ為にも、勉強会を持ち、職員の意識向上を図ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアルがあり職員が周知している。又、年1回の救命救急講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所では毎月1回、又、法人全体で年2回地域の消防団・小中学校PTAの消防クラブ等の協力を得て、災害等の避難訓練を行っている。	月1回ホーム独自で避難訓練を実施している。夜間想定訓練もしている。通報よりも、まず避難。「火事だー」の声に反応出来てきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の声掛け等にも注意を払っている。又、法人では個人情報委員会を設置し、プライバシーの保護に努めている。	法人の方針で職員は、性格の穏やかな人選をしている。利用者さんとの関わりも優しく静かで、両者の笑顔が印象的である。プライバシー尊重の意識は、研修等で図られていることが確認出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を行うにも利用者さんに聞き、気持ちを素直に表せるよう、聞く姿勢を大事にし、環境、表情等に気をつけて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんに意見を聞き、出来る範囲で希望を叶えている。又、個々のペースに合わせ、待つことを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、市内の理容協会の方々が散髪をしてくれる。近隣の美容室の方が多く、以前から利用しているからと毎月、同じ理容師からの散髪を受けている方も居る。希望によりグループホーム内で髪染めを行っている。又、希望により近くの美容室へ行く方も居る。外出や行事の際、化粧やおしゃれをする方も多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼食は併設の特養で摂取しているが、それ以外の食事の準備・片付けは当番制で職員と一緒にやっている。当番以外でも積極的に手伝ってくれる方が多い。	訪問時、移動昼食のため、準備の様子を見ることが出来なかったが、終了後テーブルを全員で拭いていた。朝、夕は当番が準備、片付けをしている。畑仕事、花壇整備等積極的な参加がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士の指導を得ながら、利用者全員の食事量や水分量、栄養バランス等をチェックしている。又、個々の嗜好にも出来る限り対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと介助を実施している。特に昼食後は全職員で対応し、口腔内の状態把握と観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ外しに取り組んでおり、排泄間隔等を把握している。時折、間に合わない時もあるが、職員の声掛け・対応の工夫や利用者の観察を行っている。	日中のオムツ利用者はいない。夜間はリハビリパンツ1名。パット1名とオムツ外しの効果が出ている。排泄チェック表でパターンを把握し、声かけ対応で、支援がなされていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品を毎日飲んでいる。便秘がちな利用者には水分摂取量を記録したり、レクや散歩などの運動を取り入れている他、きなこドリンクを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴可能で体調不良の場合には時間をずらしたり、清拭で対応している。	2人浴槽なので、職員1人に、利用者2人、大半の方が毎日入浴している。清拭で対応することもある。午睡する方が少ないので、午後に入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が談話室や和室・居室等、好きな場所で自由に休む環境を作っている。個々の生活パターンが決まっていて、本人が自由に生活出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報のファイルを作成し、常に内服薬を確認出来る。通院後に内服薬が変更になった場合は、日誌記録者へ報告し次の勤務者へ申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意な事を事前に把握し、物や場所など利用者が自由に行えるような環境作りをしている。手芸などの興味があるような新しい事も提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所での買物や敷地内の散歩を利用者の希望により1日3回程度、実施している。他にも希望があった際は、その都度、散歩・ドライブ・買物等の対応している。	法人の敷地内(1周300メートル位)を6人の利用者は、雨天時を除き、毎日2~3回散歩している。室内で歩行訓練をしている方もある。買出しは二戸市内へドライブを兼ねて出かける。桜の季節には三戸まで遠出をして喜ばれた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には2000円程度の管理をしてもらっている。買物の際、預かっている小遣いで支払をもらう事も多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際は、その都度、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の生け花やガーデニングが飾られ、又、中庭にも季節の花が咲くようにしている。	中央ホールは床暖房、居室は温風ヒーター、を利用している。就寝時を除き大半の方がホールで過ごしている。「アジサイ花」のちぎり絵、習字、写真が目の高さに貼られてある。天窗、太い梁など落ち着いた中にも安らぎが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	憩いのスペースを広く確保しており、十分な共有空間である。常に居場所を確認し危険は無いが、プライバシーには配慮し、利用者にとって居心地の良い環境を作るよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具等が置いてあり、家族の写真なども飾られ、馴染みの物に囲まれて安心して暮らせるよう配慮している。	筆筒、椅子、テーブル、遺影等の持込みがある。以前はそれぞれ好みの暖簾を掛けていたが、消防の指導で防災仕様になったため、同じ暖簾を使用している。居室の入り口には担当の職員の写真が貼られてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせた歩行補助具を使用したり、居室・苑内にものれん等使用し、各居室や浴室・トイレ等を分かりやすくしている。迷う等あった場合は、その都度、職員で話し合い等行い、検討している。		